祐介の目

No.166

大田祐介（福山市議会議員）

私の履歴書

先日、広大附属の同級生と一杯飲んだ席で伊東市市長の学歴詐称問題が俎上に上がり、私の最終学歴・広大大学院修了を挙げて「やっぱり学歴が欲しかった？」と問われた。高校を卒業して40年、私の学歴はかなりユニークなので改めてじっくり説明した。

私は高校2年生の時から受験勉強を放棄して熱病に罹ったようにバイクを乗り回し、バイク屋に入り浸っていた。そしてプロのメカニックを目指して大阪産業大学の短期大学部・自動車工業科に進んだ。同級生の多くは工業高校卒や車屋の息子で、既に基礎は学んでおり私は劣等生であった。好きなことで食べていく難しさを痛感した。

よって進路変更をし、家業の病院に戻るべく3年制の愛媛十全医療学院の作業療法科に進んだ。ここでは水を得た魚のように病院の中で育った経験を存分に活かせた。当時の作業療法士は金の卵と呼ばれたが、父から病院に帰ってくるなら経理担当をと言われ、広島会計学院に進んだ。同級生はほぼ商業高校卒、私は簿記のイロハを5才年下の同級生に教わった。感謝しかない。

そして経理担当として病院勤務を経て市議会議員となったが、当初は政治家としての知識や技能に乏しかった。そんな折にある広島市職員と支援者から熱心に社会人大学院進学を勧められた。大学院入学の条件は大卒と同程度の経歴とある。私は卒業した3校の成績・卒業証明書を取り寄せて申請したところ同程度と認めてもらえ、広島大学大学院・社会科学研究科マネジメント専攻に40歳で入学した。大学院の2年間は脳が汗をかくような厳しさであった。地域政策ゼミに入り、「芦田川河口堰に関する政策研究」という修士論文を書き上げ、私のホームページに公開しているのでご一読願いたい。

単に学歴が欲しいだけなら、あの苦労はできなかった。いずれにしても学歴がどうあれ、政治家は何をやりたいか、何を成したかに尽きる。むしろ学歴エリートでないほうが庶民の気持ちのわかる政治家になるのではないか。